

今後の授業参加について

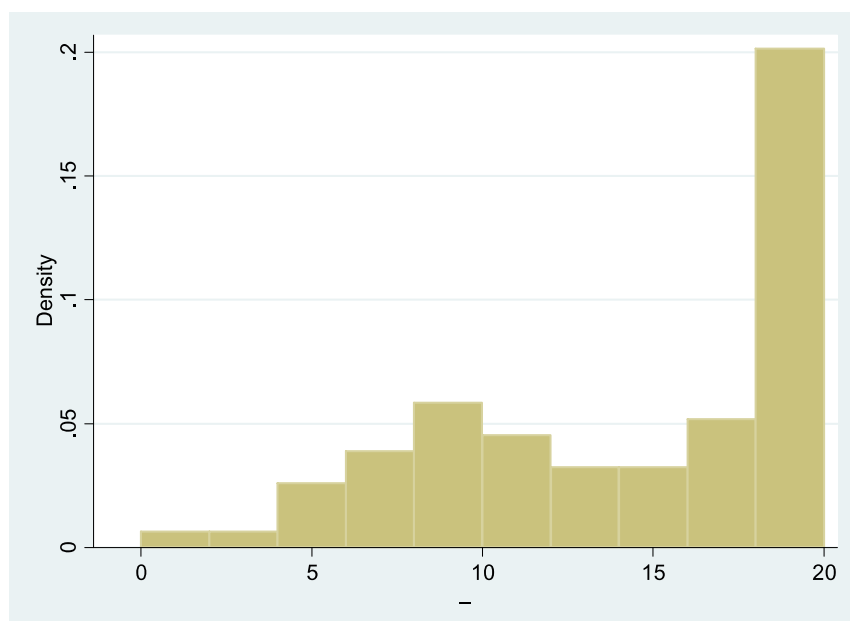
- ▶ 着席時は、隣に空席を作ること。
- ▶ 私語の多い学生は、前方の席に移動させる。

▶ 1

小テスト2 結果

第2回小テスト

サンプル数	77
平均	13.8
標準偏差	5.3
最小値	1
最大値	20



▶ 2

都市の経済学

2013 後期

『家計はどのくらいの広さの不動産に住むのか？』

レジュメ.2

【復習】 経済学の考え方について

○前提はただ一つ⇒人間・企業は合理的に行動する

ある行動を実践する？しない？



効用と費用を比較



効用 > 費用: 行動する

効用 < 費用: 行動しない

例1) 賞味期限切れのお菓子を食
べるかどうか？



美味しいのか？ 食中毒をおこすか？

例2) 企業が投資をするかどうか？



儲かるのか？ 損するのか？

○効用と費用のどちらが大きいのか、ギリギリの
ところを判断して行動していることに注目しよう

【経済学的に考える】

例：授業中の私語は何故起こるか

- 学生が勉強するかどうかは**合理的な行動の結果**
- 授業の**効用(満足)**と授業の**費用**を比較すると…？

将来収入の増加分[50円/分]

勉強する動機になる

勉強の苦痛+バイト代[45円/分]

勉強する意味が理解できない

しかし、学生は幾らの費用を負担しているか良く知らない（情報の非対称性）

勉強しようか不安になる

しかも、確かなモノでもない（不確実性）

▶ 5

費用負担の実際

- ▶ 4年間の授業料等の総支払額(2012年度)
4,124,300円
- ▶ 卒業までに必要な単位数
124単位
- ▶ 2単位(1授業)当たりの費用は…
 $124\text{単位} \div 2\text{単位} = 62\text{授業}$
 $4,124,300\text{円} \div 62\text{授業} \doteq 66,520\text{円/授業}$
- ▶ 2単位(1授業)当たりの授業が15回、1回(90分)当たりの費用は…
 $66,520\text{円} \div 15\text{回} \doteq 4,435\text{円} \Rightarrow 2,957\text{円/時間}$

○この金額が高いのか、低いのか、よく考えて主体的に授業参加しよう！！

▶ 6

家計の選択：住宅面積とその他の消費

- ▶ 家計は、好きな物を好きなだけ消費するのか？
 - ▶ 通常、このような消費は不可能...
- ▶ 家計は、使うことが出来る予算に限りがある
 - ▶ 例)お給料の50%、一か月のお小遣い、1000円/日など
- ▶ 家計は、財の価格を前提として、
、同時に
だけの消費をする！
- ▶ 「買いたい(借りたい)と思い」⇒で検討
- ▶ 「買うことができる(借りることができる)」⇒
で検討
- ▶ この2種類を同時に考えて、
について検討する。

▶ 7

家計が消費する財とサービス

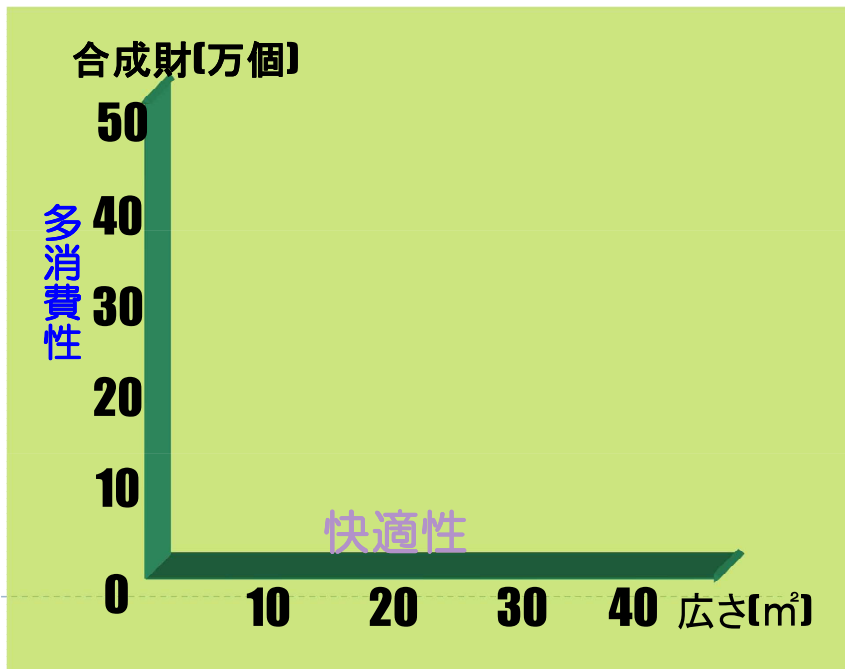
- ▶ 話を簡単にするために、家計が消費するのは「住宅サービス」と「その他の財・サービス」とする
 - ▶ 住宅サービス:ここではとして考える
 - ▶ その他の財・サービス:一つにまとめてとよぶ
 - ▶ 合成財はとする
 - ▶ よって、となる
- ▶ 2種類の家計について検討
 - ▶ A君:独身、B君:妻子持ち
 - ▶ 当然、かれらの消費パターンは異なるだろう...

▶ 8

無差別曲線：消費の組み合わせ

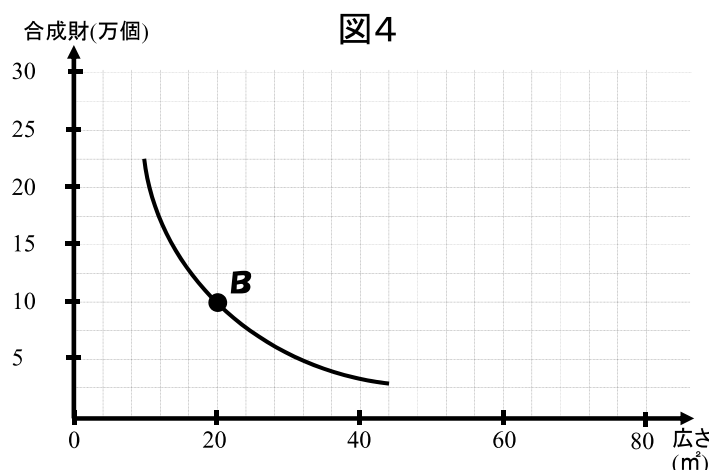
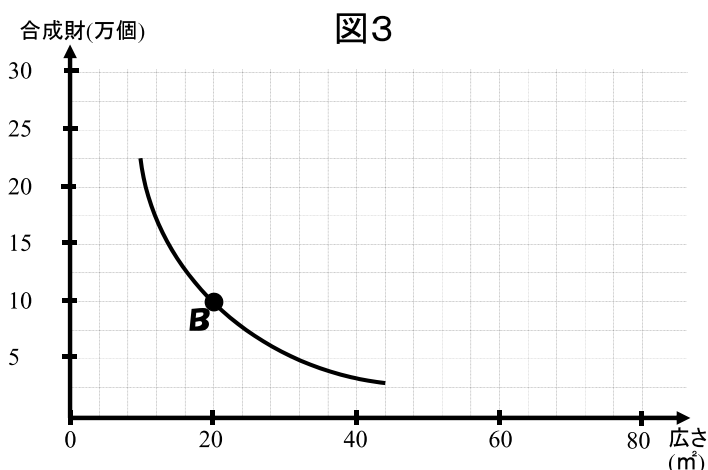
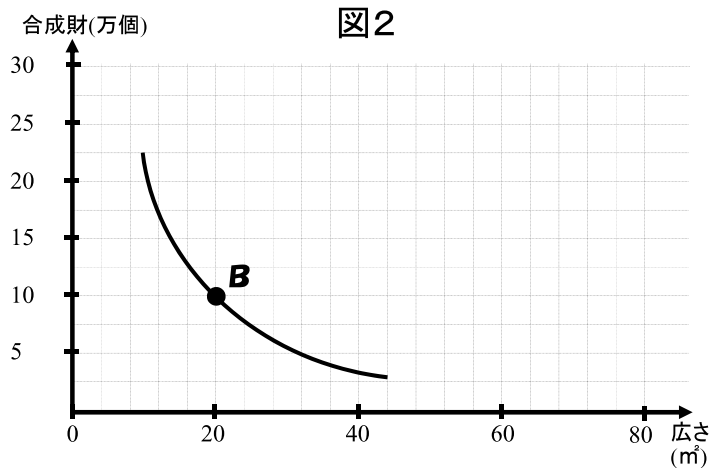
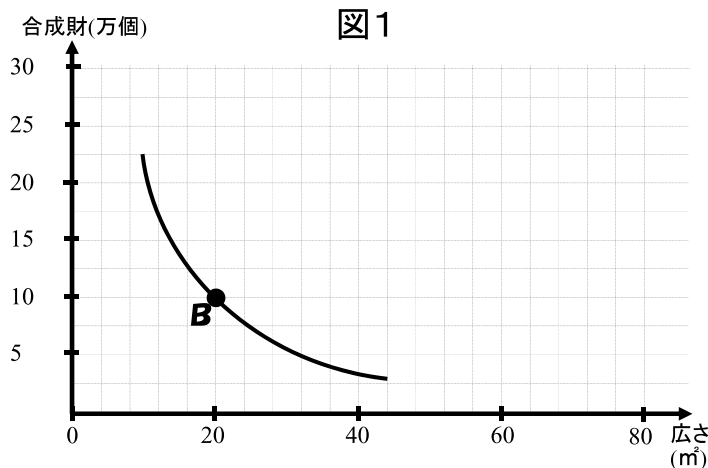
合成財(1円/個)を10万個、住宅の広さが40㎡ある住居を選んでいるとする。ここで、で合成財20万個なら、住宅の広さはどの程度まで減らせるか…

合成財の消費	快適性(広さの好み)
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>



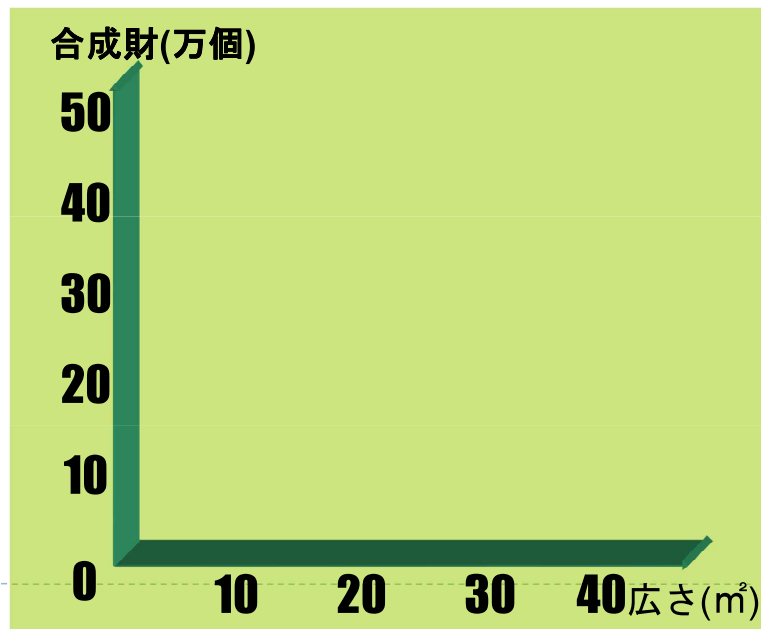
▶ 9

無差別曲線：4つの特徴



無差別曲線：形は同じか？

消費の 多さ	快適性(広さの好み)	
	A君	B君
10		
20		
30		
40		
50		



▶ 11

予算制約：消費可能な組み合わせ

- ▶ 家計が支出できる金額には際限がある
 - ▶ 際限なく消費することは不可能.
- ▶ 買うことができる(借りることができる)消費の組合せを検討
⇒

- ▶ 以下、A君の予算制約線について考える
- ▶ ⇒消費可能な住宅サービスと合成財の組合せを検討する！
 - ▶ 賃貸住宅を探している
 - ▶ 賃貸住宅市場：5000円/m²
 - ▶ 合成財：1円/個
 - ▶ 給料：20万円/月

▶ 12

予算制約：A君の場合

- ▶ A君の**予算制約線** () はどのようになるか…

$$Y = P_c \times Q_c + P_r \times Q_r$$

⇒

⇒

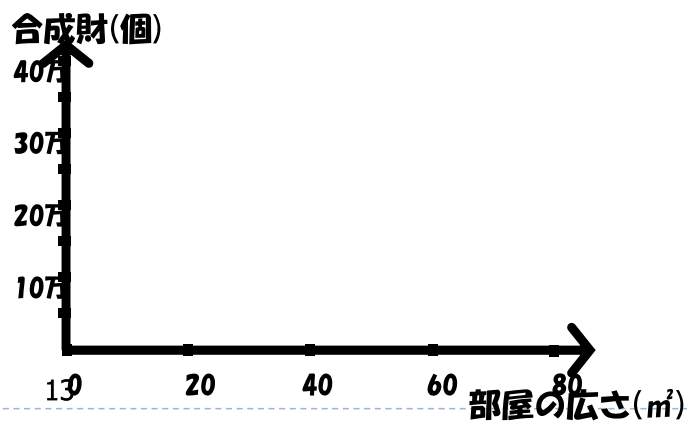
Y: 月給 (=20万円)

P_c: 合成財の価格 (=1円/個)

Q_c: 合成財の量

P_r: m²あたりの賃料 (=5000円/m²)

Q_r: 住宅サービス(m²)の量



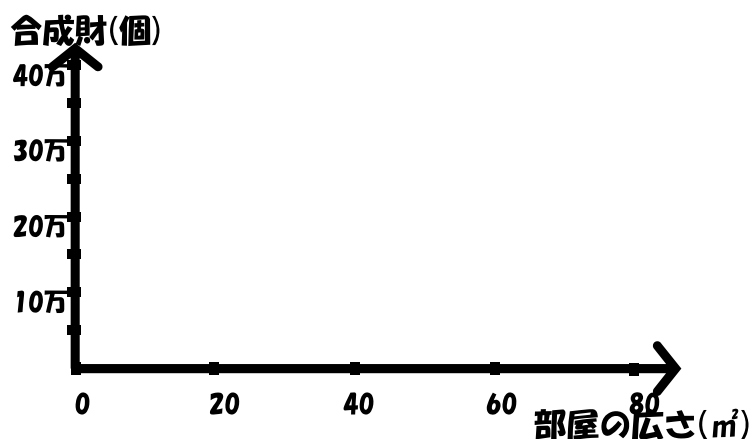
予算制約：A君の場合

- ▶ 家賃(円/m²)が**2500円/m²**に値下がりすると予算制約線は…

$$Y = P_c \times Q_c + P_r \times Q_r$$

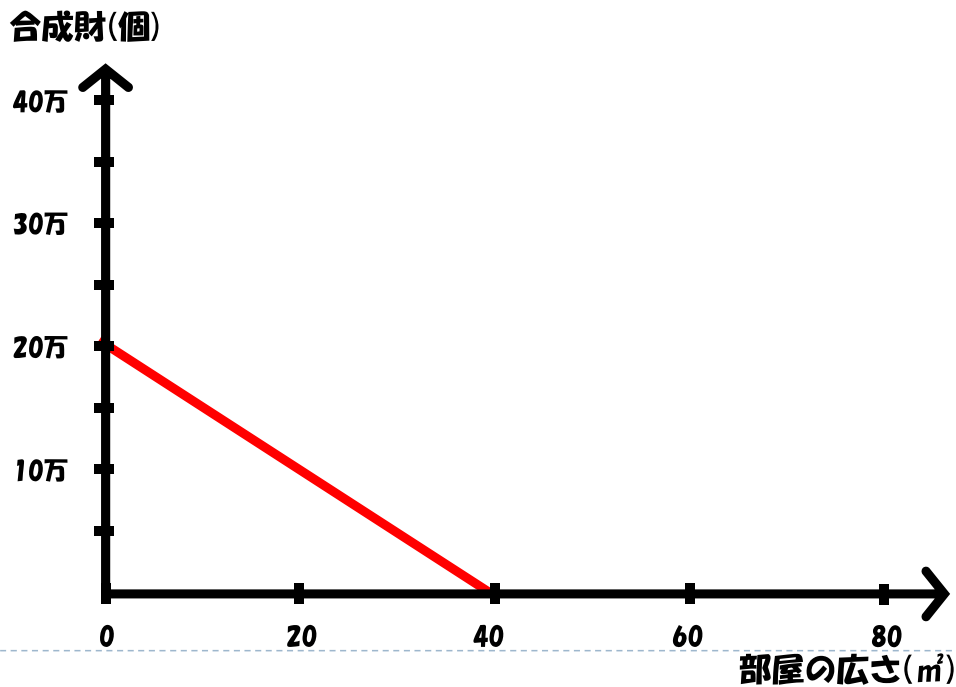
⇒

⇒



予算制約線が持つ意味とは？

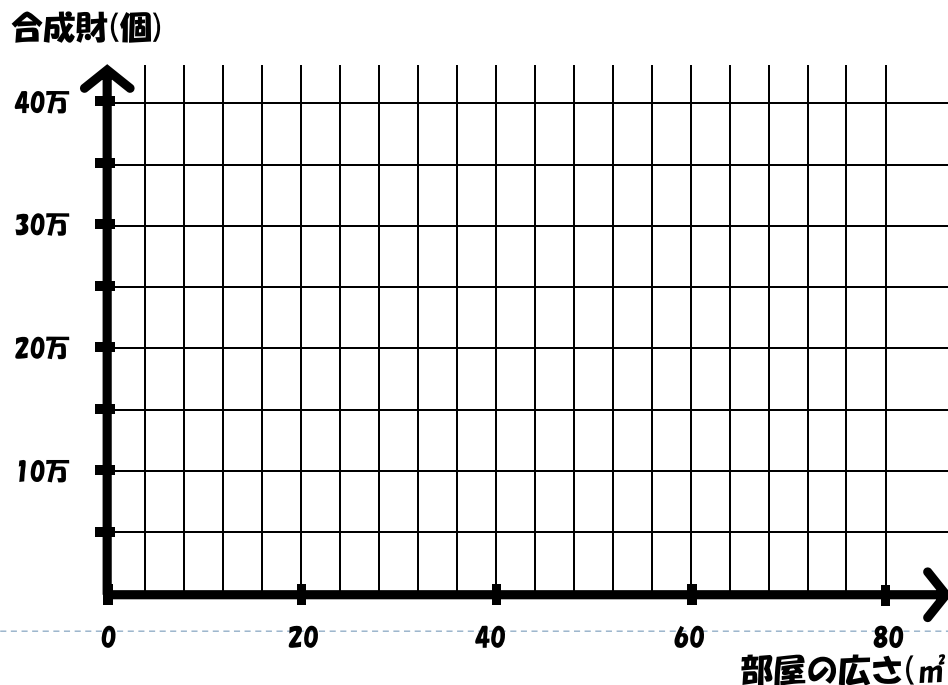
合成財と住宅サービスが()な()かどうかを判断することが出来る！



家計の消費について検討

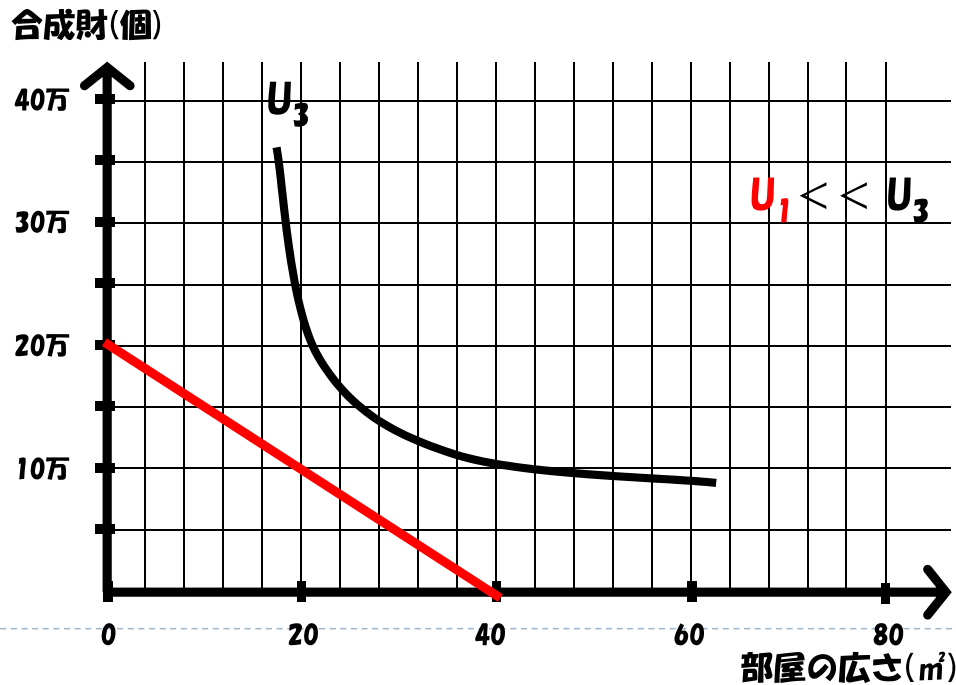
合成財と住宅サービスをどれだけ消費するのか？

これらを利用して検討！



家計の消費について検討

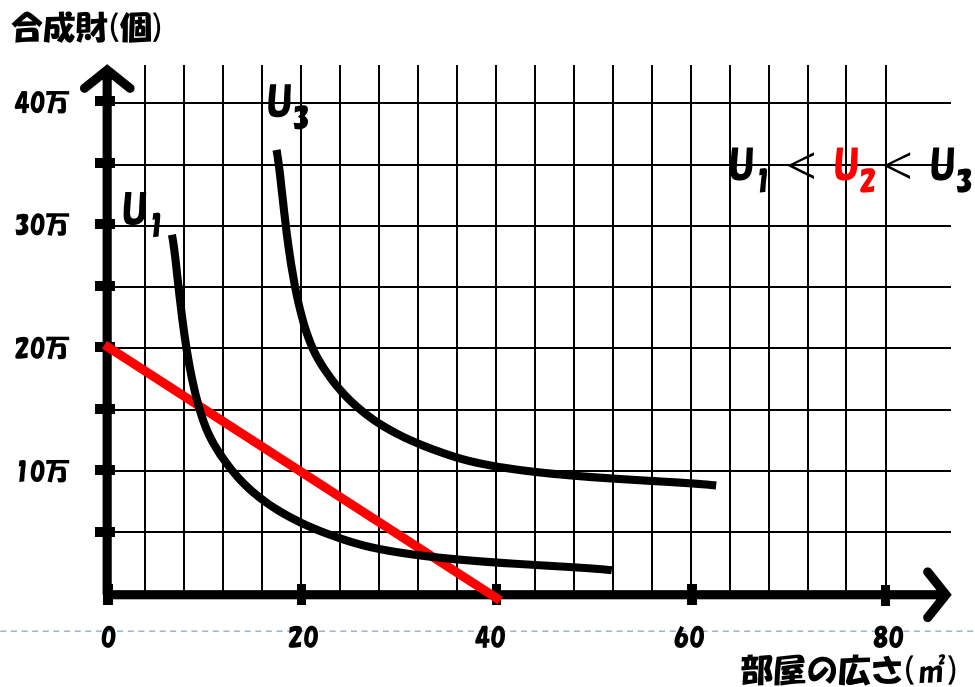
$U_1 \ll U_3$ となる効用水準 U_1 の無差別曲線で考えてみると...



▶ 17

家計の消費について検討

$U_1 < U_2 < U_3$ となる効用水準 U_2 の無差別曲線で考えてみると...

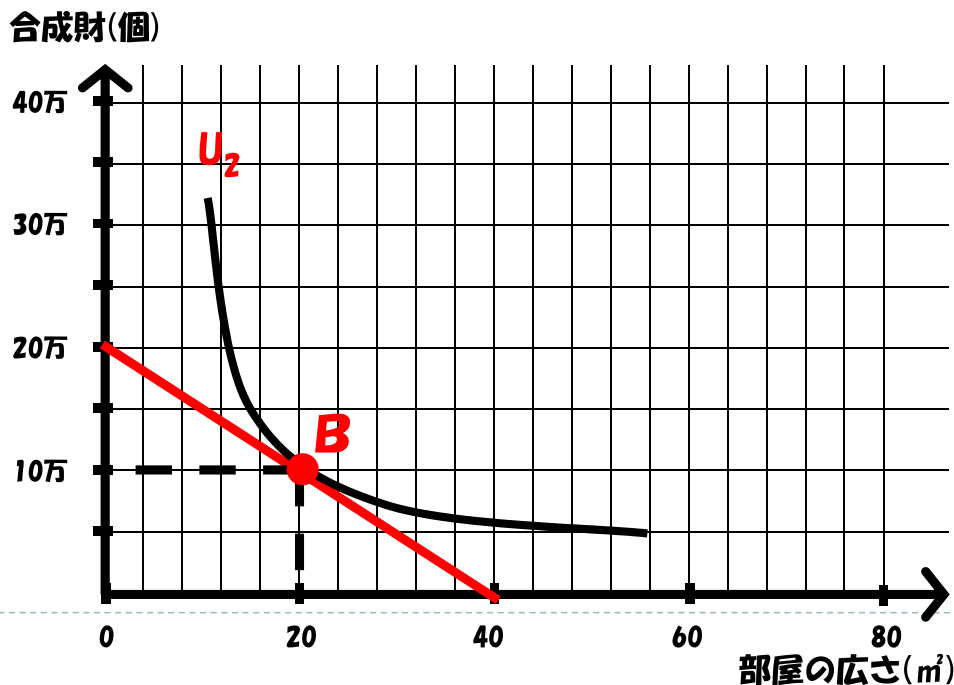


▶ 18

住宅サービス（広さ m^2 ）とはどのような財？

価格が一定で、A君の給料が30万円に増えたら？

- 予算が増加すると消費が増える財：
- 予算が増加すると消費が減る財：

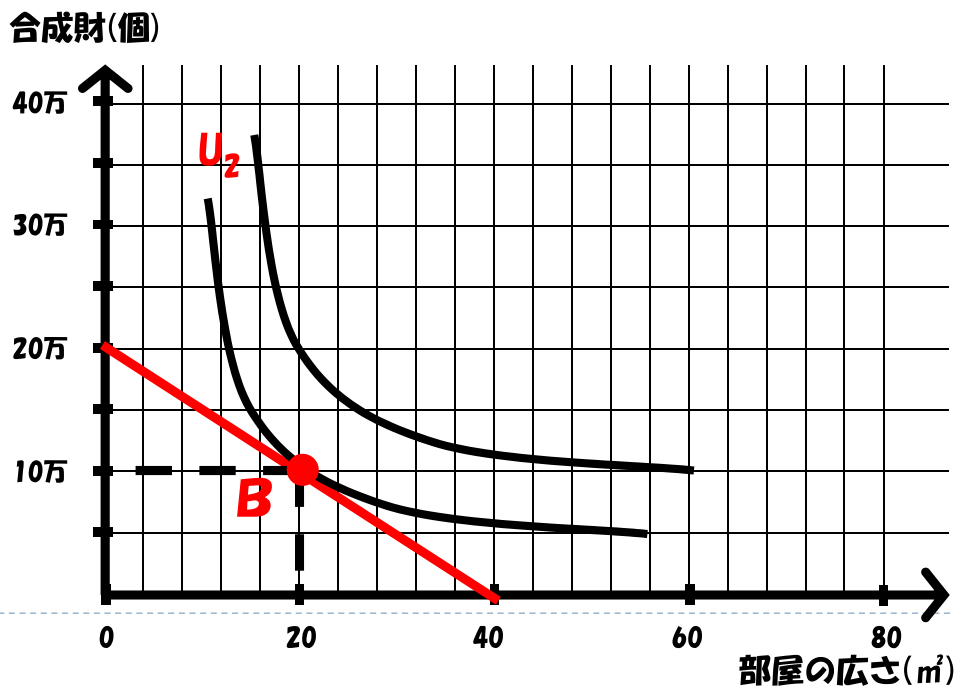


▶ 19

代替効果と所得効果(やや難)

家賃が安くなったらどうなるのか？ ()

価格変化は と の2つの効果を通じて から へ消費の最適点を移動する。



▶ 20

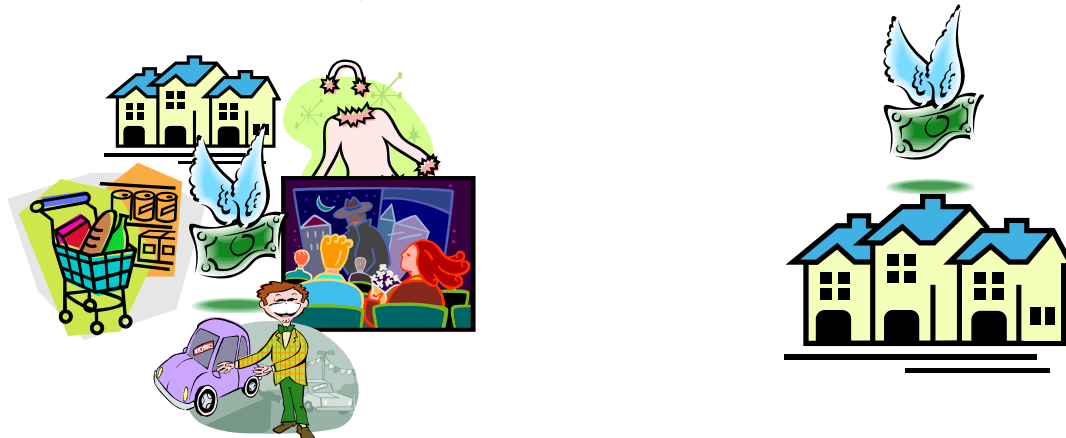
所得補助政策と家賃補助政策の経済分析

所得補助政策：配布された補助金

⇒どのような財・サービスにも利用可能

家賃補助政策：配布された補助金

⇒家賃支出のみに利用を限定



所得補助政策 (なんでも買える)

家賃補助政策 (賃貸のみ)

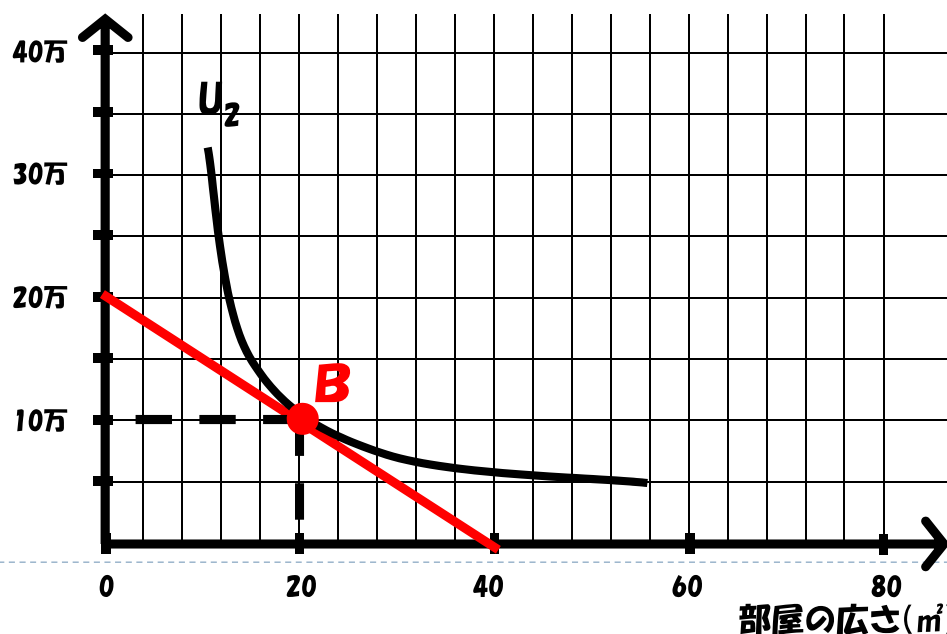
▶ 21

所得補助政策が行われた場合

○A君：10万円/月の所得補助をもらう場合

所得補助金(10万円)が支給されると、A君の予算総額は30万(20万円+10万円)となる。合成財や住宅サービスの価格が変化しないとすると、新しい予算制約線は…

合成財(個)



▶ 22

家賃補助政策が行われた場合

- ▶ A君：1㎡あたり3000円の家賃補助をもらう場合
 - ▶ 家賃補助は使い方が限定(家賃のみ)
 - ▶ 財価格(家賃5000円/㎡)を一定とすると，実質的な家賃負担は， のと同様！

$$Y = P_c \times Q_c + P_r \times Q_r$$

⇒

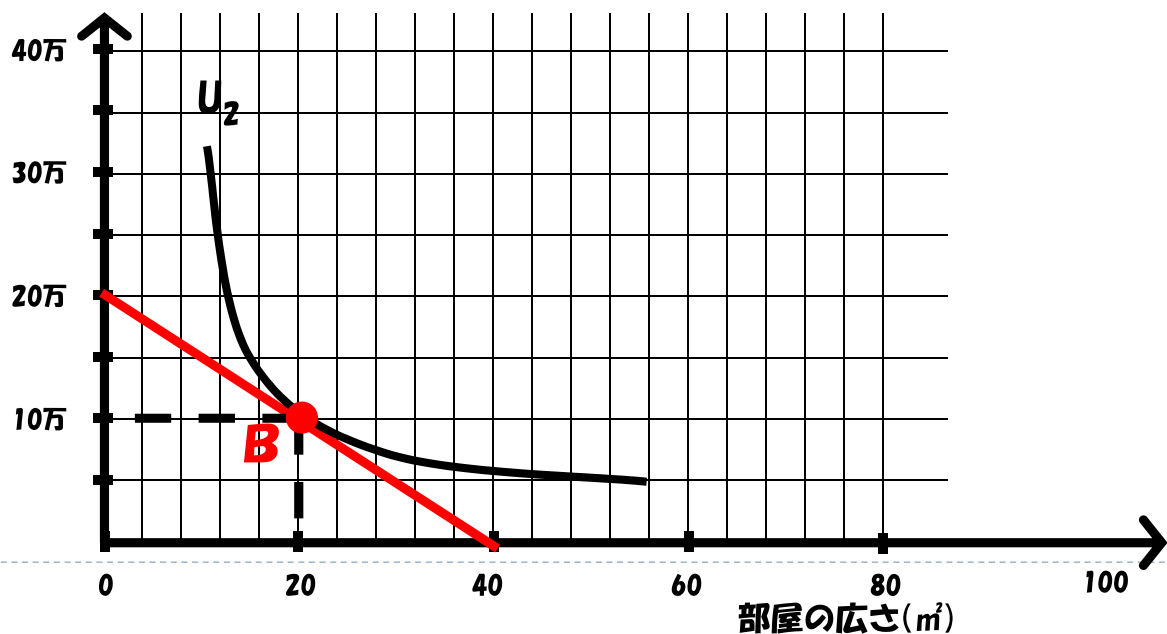
⇒

- ▶ A君の家賃負担は()小さくなる.

▶ 23

- ▶ A君の実質的な家賃負担(補助金=3000円/㎡)
- ▶ 新しい予算制約線は…

合成財(個)



▶ 24

所得補助政策と家賃補助政策の評価

▶ 所得補助政策

- ▶ 効用水準 U_3 を達成させるために

▶ 家賃補助政策

- ▶ 効用水準 U_3 を達成させるために

▶ 両者を比較すると・・・

- ▶ 【問】就職すると家賃手当を会社からもらえる場合が多いが、それってどうなんだろう・・・？

補論（数学的には...）

- ▶ ここでは家賃補助がどの程度支給されるかは不明
- ▶ 本来は、消費者の満足度を表す効用関数と予算制約線を定義し、それらを連立方程式として解くことで、均衡点・補助金額などを導くことが可能である。

例)

予算制約式： $I = P_1 \cdot X_1 + P_2 \cdot X_2$

効用関数： $U(X_1, X_2) = X_1^A + X_2^B$

効用最大化時の消費量：

$$X_1 = \frac{A}{A+B} \frac{I}{P_1}, \quad X_2 = \frac{B}{A+B} \frac{I}{P_2}$$